

京都市立西総合支援学校 コミュニティスクールについて ～これまでとこれから取り組みたいこと～

京都市立西総合支援学校
教頭 中西 太郎

1 京都市立総合支援学校

京都市の総合支援学校の教育について

養護学校の再編

- 平成16年度 京都市の養護学校再編
 - ・障害種別を超える
 - ・地域制総合養護学校(全国に先駆けて)
- 平成19年度 (法改正)
 - ・養護学校→「特別支援学校」
 - ・京都市では 「総合支援学校」

総合制

- ◆従来の障害種別の養護学校という制度的枠組を取り払い、障害の重度・重複化、多様化した一人一人の児童生徒の視点から、必要な時期に必要なことを行う教育
- ◆児童生徒の障害の重度・重複化、多様化
 - 個々の子どもの教育的ニーズに応じていく教育的手立ての必要性
 - 「**個別の包括支援プラン**」の作成

地域制

- ◆障害のある児童生徒が、地域の中で質の豊かな生活を送るノーマライゼーション理念の実現を目指した、地域に開かれた総合支援学校で学ぶこと
- ◆地域に根ざした総合支援学校
 - 居住地により近い総合支援学校へ
 - 生活の質の豊かさを地域において育む
 - 通学負担の大幅軽減
 - 4つの通学区域に改編

総合支援学校とは

従来の障害種別の教育から、一人一人の教育的ニーズに応じた教育に転換することにより、今までの養護学校の機能を高めるとともに、**地域の(幼)・小・中・(高等)学校に在籍する(幼児)児童生徒をはじめ、より幅広い教育的ニーズに対しての支援機能をあわせ持つ、地域の相談・支援の核となる学校である**

～平成15年度

知的障害

- 西養護
- 東養護

肢体不自由

- 呉竹養護

- 白河養護

病弱

- 鳴滝養護
- 桃陽養護

16年度

総合制・地域制

- 北総合
- 西総合
- 東総合

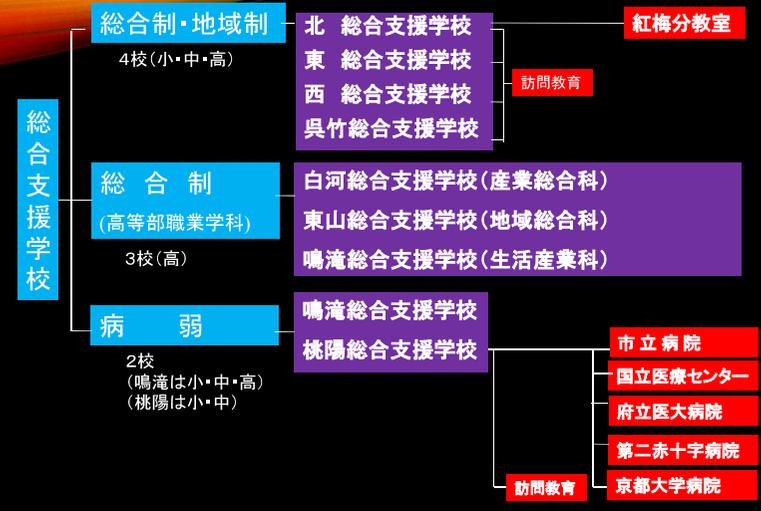
職業学科

- 呉竹総合
- 白河総合

(東山総合) H28開校

病弱

- 鳴滝総合
- 桃陽総合
- 鳴滝総合



京都市立総合支援学校



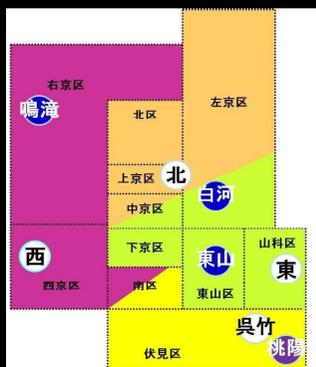
北総合支援学校



鳴滝総合支援学校



西総合支援学校



白河総合支援学校



東山総合支援学校



東総合支援学校



吳竹総合支援学校



桃陽総合支援学校

西総合支援学校の概要と取組



京都市立西総合支援学校

教育目標

「できる」自分を知り、夢や希望を持って、
自ら、ひと・もの・ことに向かう子どもを育てる

- 児童生徒は「できる」状況や手だてがあれば「できる」存在である
- 児童生徒を地域に生きる一人の生活者としてとらえ、学校だけで完結しない取組を推進



昭和61年開校
児童生徒数：227名
(小：80名，中：60名，高：87名)

児童生徒について

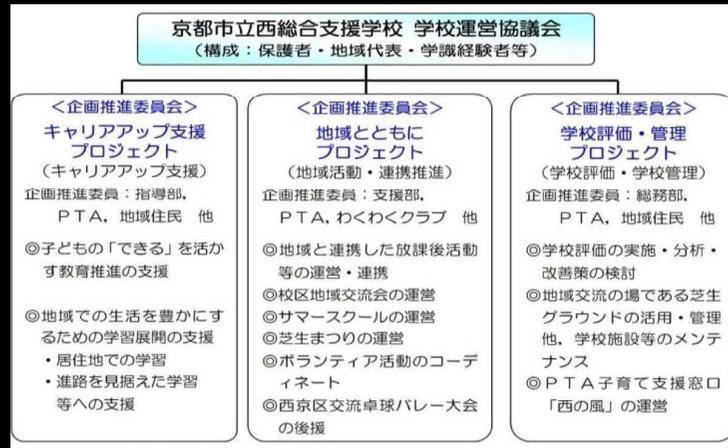
知的障害か肢体不自由のある子ども
(重複障害)

- 小学部 79名 (うち訪問教育2名)
- 中学部 61名 (うち訪問教育3名)
- 高等部 86名 (うち訪問教育1名)
- 計 227名

通学圏

西京区，右京区，南区 (久世中校区)

学校運営協議会組織について



特別支援学校における 2つのコミュニティ

◎ローカルコミュニティ

学校のある地域コミュニティ
学校のカリキュラムや行事を生かす交流
子どもの居住地域コミュニティ（43小学校区）
居住地域やその学校との交流

◎テーマコミュニティ

教育・子育てなど共通するテーマに集うコミュニティ
校区に限らず、障害のある人たちが住みやすい
街づくりを目指す人々の集い

双方向の援助による新しい地域の創造

⇒ 双方向の援助 & 新しい地域づくり

- * 本人にとって → **暮らしている地域での
学び・交流の機会**
- * 保護者にとって → **家庭への支援
地域へのかかわり・参画**
- * 地域の方にとって → **障害への理解・啓発
暮らしやすい地域づくり**
- * 支援者・関係機関にとって
 - **プログラムの開発 協力
ボランティアとの連携**
 - **学びの拡がり・つながり**

これまでの取組

地域とともにプロジェクト

3つのプロジェクト

▲キャリアアップ支援 PJ

●地域とともに PJ

◆学校評価・管理 PJ



居住地域で

- わくわくクラブの運営
- にこにこクラブの運営
- 光華子ども遊び隊への協力

学校で

- 芝生まつり
- 校区地域交流会の運営
- サマースクールの運営
- 啓発リーフレットの作成
- ボランティア養成講座

令和3年度にできたこと

キャリアアップ支援プロジェクト

○児童生徒の「できる」を活かして、

- ・ 交流および共同学習
- ・ 地域での学習
- ・ 働くことを学ぶ学習

を進める

☆小学部

居住地校との作品交流
学校での様子紹介動画

☆中学部

居住地校との作品交流・オンライン交流

☆高等部

出身中学校とのオンライン交流
職場実習

地域資源プロジェクト

○地域作品展

本校の児童生徒の居住地である西京区・右京区・南区で行政機関や企業と協力し、児童生徒の作品展を実施。特に右京区は、本校の児童生徒が通学していることが地域で浸透していなかったことから、当時の右京区長から作品展の提案があったと聞いている

ローカルコミュニティ

右京区地域作品展

期間 令和3年12月10日（金）～12月14日（火）
場所 サンサ右京1階ロビー

南区地域作品展

期間 令和4年1月19日（水）～1月24日（月）
場所 ダイエー桂南店2階

最近の状況

- コロナ禍により、児童生徒・教職員以外は、保護者も含めて校内への立ち入りを制限している状況の中、全ての取組・活動が中止となっている
- 放課後等デイサービスの充実など、発展的解消した取組・活動もある

これから取り組みたいこと

学校運営協議会の在り方

- ◎コロナ禍における学校運営協議会の開催方法
- ◎学校運営協議会として、学校や児童生徒とどのようにかかわっていくのか
- ◎コロナ禍における地域とのかかわり

キーワードは・・・

「オンライン」
「馴染み（なじみ）」

◎コロナ禍における 学校運営協議会の開催方法

○オンライン（Zoom）で学校運営協議会開催



◎学校や児童生徒とのかかわり

- 委員全員による校歌（手話）を撮影
始業式，終業式等の校歌静聴時に映像を流す
→児童生徒が顔を覚える
→認識され，対面したときの親近感（なじみ）

※動画をご覧ください

◎コロナ禍における 地域とのかかわり ①

- オンラインで実施できる取組等を模索
 - ・双方向で何かできないか？
☆桂坂人材バンク構想
→伝統工芸の技を伝授，戦争体験を聴く等
 - ☆米寿のお祝い品を作成し，プレゼント
→制作過程を動画配信

◎コロナ禍における 地域とのかかわり ②

- オンラインで実施できる催しを模索
 - ・双方向で何かできないか？
福祉事業所見学
→訪問は難しいけど，オンラインで見学
などなど

◎コロナ禍における 地域とのかかわり ③

- ◎その他にも・・・
 - ・桂坂ウォークラリー
地域の方にスポットの映像と地図を送って
いただき，児童生徒が散策しながら見つける
 - ・児童生徒が製作したテーブルと椅子をウッド
デッキに常設し，おもてなしに使用する
 - ・学校近辺のお宅に児童生徒が学校だよりを配布

◎ワークスタディ木工班(中・高)で 製作したテーブルと椅子



◎コロナ禍における 地域とのかかわり ④

○課題

- ・ 個人情報保護の問題
- ・ 画面越しで細かな技術等がうまく伝わるか？
- ・ 撮影にご協力いただけるか？
- ・ コロナ禍がどれぐらい鎮静化するか
→教育活動(かかわり)への影響

まとめ . . .

過去に取り組んできた取組の意義を継承しつつ、
このコロナ禍の状況で何ができるのか？を模索し、
西総合支援学校コミュニティスクールの深化を
目指して！

